



街中がキャンパス！！ キラリと光る大学活動応援プロジェクト

～令和8年度東海市大学連携まちづくり推進事業が決定しました～

「大学の教育・研究活動」や「学生の活力」を生かした地域課題の解決や地域の活性化を図るとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出するため、市内にある星城大学（富貴ノ台）と日本福祉大学（大田町）の2大学に在籍する教員又は学生が行う、下記のまちづくり事業について補助を行い、大学と連携したまちづくりを進めます。

■補助採択事業

地域防災、多文化共生、児童福祉などがテーマの12事業（応募12事業）

詳しくは別紙のとおりです。

■その他

東海市大学連携まちづくり推進事業は、平成29年（2017年）から継続して実施しており、今年で10年目となります。今まで実施した事業は、合計で107事業にのぼり、大学による地域の活性化に取り組んでいただいています。

また、そのほかにも市内2大学とは図書館等大学施設の一般開放や、自然災害等発生時の大学施設の利用など、様々な場面で連携を進めています。

問合せ	企画部 企画政策課 担当：成田（なるた） 052-613-7574、0562-38-6198
-----	--

NO	事業名	新規 継続	事業概要	実施 主体	申請者
1	東海市防災意識向上	新規	東海市主催「ものづくり道場」と連携し、小学生とその保護者、地域住民を対象とした体験型防災イベントを実施する。 「つくる・学ぶ・備える」をテーマに、防災グッズ作り・防災クイズ・ハザードマップ展示を通して、楽しみながら防災知識を学べる場を提供する。	学生	日本福祉大学 防災向上委員会 高槻 拓東
2	子ども施設の内装木質化による環境改善プロジェクト	継続	東海市では公共建築物の木質化を積極的に進めており、過去の事業において、東海市役所前、聚楽園前で実施したバス停、保育施設の木質化をおこなった。その手法を市内の子ども施設に導入して施設の環境改善に取り組むことで、地域の魅力を再構築するとともに、優れた住環境・景観を持ったまちづくりを行う。	教員	日本福祉大学 建築学専修坂口大史研究室 坂口大史
3	東海市イングリッシュ・サロン	継続	東海キャンパス近隣地域の子どもたち（主に小学生）と本学学生（教職課程の学生や英語教育の理論と実践に関心をもつ国際学部ゼミ生）、そして近隣の町内会など地域の方々との協働による「イングリッシュ・サロン」を開催する。本学学生がファシリテーターとなり、子どもたちが取り組みやすい英語の歌・ゲーム・絵本などを用いたアクティビティを行いながら、地域の方々と保護者、本学教員を含めた参加者同士の交流にもつなげる。	教員	日本福祉大学 国際学部 米津ゼミ 米津 明彦
4	地域交流防災カフェ	新規	市内のコミュニティ組織の活動拠点で、レクリエーション、防災食の試食、防災食および防災グッズの提供を併せた防災カフェを開催する。また、防災カフェの前後にアンケート調査を行い、防災カフェの開催による防災意識・防災能力の変化を測定する。	教員	日本福祉大学角崎ゼミ 防災カフェプロジェクト 角崎 洋平
5	につぶく子ども映画づくり教室～映画の撮影・編集・上映体験をしてみよう！	新規	本プロジェクトは東海市内の小学校に通学する子どもたちに、映像表現についての基礎的な知識を学んだ上で、実際にショート・ムービーの制作を实践すること、具体的にはシナリオづくりについての学び、映画撮影、編集について体験し、実際のスクリーンでの作品上映といった、映画芸術の創造から鑑賞までを体験することによる学びを経験してもらうことである。 ①東海市の小学生に対する本プロジェクト参加の呼びかけ活動 ②「東海市創造の杜交流館」における映像制作・編集指導の活動 ③映画上映会の開催と保護者・市民に向けた招待活動	教員	日本福祉大学小坂啓史ゼミ ナール 小坂 啓史
6	笑顔がインフラになる街 東海市×日本福祉大学 「スマイル・ウェルビーイング・コミュニティ」推進事業	新規	これまでの「笑いと健康づくり」の実績をもとに、「笑顔がインフラになる街：東海市を目指していきたい」と考えている。しかし、4名の活動で、東海市全体に広げていくには、限界があるため、さらなる「笑いと健康づくり」リーダーを養成し、この事業が自主的な組織活動へと発展するよう段階的に以下の通りに実装していきたいと考えている。 ①「笑いと健康づくりリーダー」の育成 ②「笑いの場」のモデル実施 ③自主的な地区組織活動への発展支援	教員	日本福祉大学看護学部 尾関唯未研究チーム 尾関唯未
6	NIPPUKU(につぶく)多文化コーラス隊	継続	日本福祉大学国際学部の学生・教員による多国籍・多言語の「NIPPUKU(につぶく)多文化コーラス隊」を編成し、月2回程度の練習を行いながら、市内福祉施設やイルミネーション会場等でミニコンサートを開催する。多言語の歌や留学生による各国の踊りを通じて、多文化共生や大学と地域住民との交流促進を図る。現在、約40名の学生が参加しており、今後は市民参加も視野に活動を展開する。	教員	日本福祉大学国際学部 カースティ・小國ゼミ カースティ祖父江
7	子ども食堂「ふぁみりー基地in 東海」	新規	東海市立横須賀中学校他学校内調理室や公民館等を利用して、2026年7月から2月まで毎月2回、子ども食堂「ふぁみりー基地in 東海」を開催する。 各回あたり約30名の参加者を予定している。	教員	ふぁみりー基地東海 野尻紀恵
8	シルクスクリーンでオリジナルバックづくり	継続	シルクスクリーン作品の展示及びシルクスクリーンのワークショップの開催。	教員	日本福祉大学経済学部 遠藤秀紀
9	モルックでつながる！東海市世代間交流&健康推進プロジェクト	新規	本事業は、フィンランド発祥のニュースポーツ「モルック」を活用し、子どもから高齢者まで世代を超えて誰もが気軽に参加できる交流イベントを東海市内で創出するものである。モルックは、特別な運動能力やスキルを必要とせず、体力差や年齢差に関わらず参加しやすい競技である。まだ知名度は低いが、体験会やミニ大会などで「モルック」の魅力やルールを知ってもらえれば、地域住民が誰でも気軽にスポーツに楽しめるきっかけとなる。 まず「モルック」について学び、そのルールや安全確保の留意点を理解する。その上で、体験会・ミニ大会の企画・実施を通して、地域住民に気軽にニュースポーツに触れられる機会と学生も含めた交流の場を提供する。	学生	日本福祉大学吉田ゼミ 安藤佑真
10	不登校の小中学生と作業療法学生による協同体験活動事業	新規	本事業では、東海市教育支援センター「ほっと東海」の平洲中学校教室、上野公民館教室、横須賀教室を利用する不登校の小中学生を対象に、星城大学3号館の教室を活用し、作業療法学生とともに革細工、簡単な料理、謎解き、創作活動の協同活動を体験する機会を提供する。活動を通じて、不登校の小中学生が安心して他者と関わる経験を得るとともに、学びや社会的交流のきっかけづくりおよび促進を図る。	教員	星城大学リハビリテーション学部作業療法学専攻 香名 一朗
11	ぐんぐん育てフェスタ親子で遊ぶ気軽な発達相談会	新規	幼少期の身体活動について個人差はあるものの、小学校入学時には皆が身につけておきたい基本動作がある。日常生活や保育園、幼稚園での生活において、保護者が少し気になっている子どもの発達について、遊びの場面を通じて身体活動の確認ができ、気軽に相談できる場を提供する事業である。子育て支援の一環として、東海市在住の幼児（2歳～6歳）を対象に身体活動のチェックを行い、年齢相応の基本動作が身につけているのかについて結果のフィードバックを行い、保護者の希望に応じて発達の専門家（理学療法士・作業療法士）が相談を受ける。相談では身体活動を高める工夫・取り組みや、東海市の子育て支援につながる情報提供を実施する。これは第7次東海市総合計画におけるまちづくりの視点1（施策1）：子育てしやすいまちづくりの推進のための事業である。	教員	星城大学リハビリテーション学部 宅 わか子
12	留学生と地域をつなぐ多文化共生推進事業	新規	本事業は、留学生が中心となり、以下の二つの地域向け講座・交流イベントを実施する。 (1)外国人住民向け防災イベント 留学生が、母語や英語、日本語を用いて、東海市内在住外国人に対して日本の災害や防災に関する情報提供を行う。地震・水害など日本特有の災害について、避難行動や防災用品、災害時の情報収集方法、ワークショップ形式を交えて分かりやすく紹介する。 想定人数：留学生10名、東海市内在住外国人30名 (2)国際理解交流イベント 留学生が、東海市民に向けて自国の文化、生活習慣、食文化、観光地、学校生活、価値観紹介する交流イベントを開催する。単なる文化紹介にとどまらず、異文化理解を通して、多文化共生社会への理解を深めるとともに、東海市民と留学生が相互理解を図る機会とする。想定人数：留学生20名、東海市民50名。	教員	星城大学留学生別科 林エミ